

2011年夏号
仙台市

農政だより



発行 仙台市経済局農林部(農政企画課、農業振興課、農林土木課)
〒980-8671 青葉区国分町3丁目7-1 電話 022-214-8265(農政企画課) FAX 022-214-8338
ホームページ http://www.city.sendai.jp/business/d/keizai_03.html
Eメール kel008110@city.sendai.jp (農政企画課)

農業再生への第一歩

農地のがれき撤去を開始しました

市では、東日本大震災の津波により農地に漂着したのがれきの撤去を7月1日から開始しています。

撤去の実施地区は図1のとおりです。

作業予定などは、前もって、市のホームページもしくは次の場所に掲示してお知らせします。

- ・宮城野区・若林区の各避難所
- ・JA仙台的支店(高砂、七郷、六郷、中田)

- ・JA仙台中央営農センター
- ・仙台東土地改良区

◇撤去の対象

津波浸水地域の農地(田・畑) 約1800ヘクタール、農道、農業用水路に漂着した「建築物等の残がい」や、「流木」などがれき、自動車など

◇作業の立ち会い

大型重機を用いての作業となる



凡例
がれき撤去対象区域 (宅地を除く)

図1 農地のがれき撤去対象区域図



7/1 若林区荒井字藤田東にて

ため、作業中の立ち会いは不要です。
なお、立ち会いを希望される場合は、安全確保のため、現場の市職員等や作業員の指示に従ってください。

がれき撤去については、本年度末までに終える予定で、終了後、作業区域内に堆積している土砂の撤去を開始します。

東部地域の一日も早い復興に向け、がれき撤去作業とともに農業用水路や排水機場の復旧工事を進めてまいります。

皆さまのご理解とご協力をお願いします。

【農林土木課整備係

214-8268】

農業者の皆さまへ
意向調査を行っています
8割が営農継続へ高い意欲

市とJA仙台、仙台東土地改良区で構成される「仙台東部地区農業災害復興連絡会」では、被災された農業者の皆さまを対象に、4月末より直接面談を通じて意向調査を実施しています。5月中旬からは兼業農家へも対象を広げ、6月末までに、509戸への聞き取り調査を完了しました。

結果、約8割の農業者が営農継続へ意欲を示しており、農地利用については「大規模区画整理」を希望する方が多い結果となっている一方、畑地については「個別営農」の意向が大半となっています。

また、主な意見として、「農地の早期回復に関すること（がれき、排水路の修繕、塩害対策）」、「防災に関すること（防波堤の建設等）」、「営農に関すること（生活支援、資金、

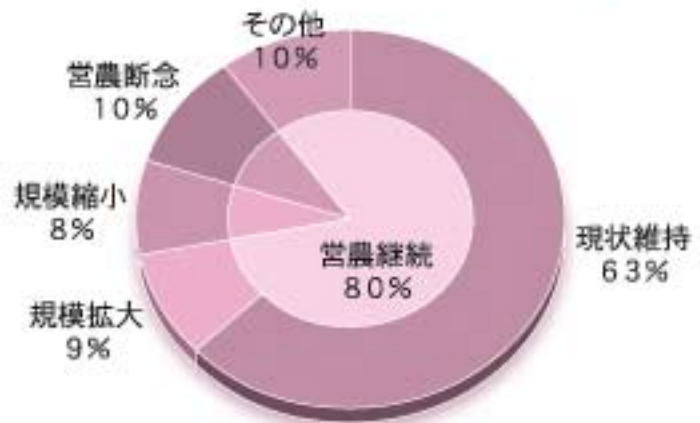


図2 今後の営農について 中間集計結果

機械の援助）」、「居住地の線引等に関すること」などが挙げられています。

市では、意向調査の結果、及び面談の際にいただいたご意見を、10月末までに策定する「仙台市復興計画」に反映させてまいります。

【農業振興課生産振興係

214-8335】

農地及び農業機械等の
賃借料(リース料)を
補助します

被災した農業者の営農を支援するため、農地の賃借料並びに軽トラックや農業機械等の賃借料を補助します。

◆補助対象者

被災農業者（認定農業者又は、認定農業者が2/3以上で組織している営農集団）

◆事業の内容

①農地の賃借料補助

東日本大震災による経営農地の被災により、新たに概ね3年以上の市内農地の賃借借契約を締結した場合、初年度に限り、仙台市農業委員会が公表した賃借料情報の最高額を限度に助成します。（総額での限度額もあり）

②軽トラックや農業機械等賃借料(リース料)補助

賃借料の1/2を初年度に限り助成します。

※限度額(年間)

- ・軽トラックの場合 20万円
 - ・農業機械等の場合 30万円
- 購入の場合は助成対象となりません。

ご希望の方は、左記までお問い合わせください。

【農政企画課農地保全係

214-8334】

仙台産野菜の放射性物質の独自検査を実施します

本市で生産される野菜の安全・安心の確保と消費者の不安解消、風評被害を防止するため、仙台産野菜の放射性物質の独自検査を仙台農業協同組合と連携して実施します。

○検査開始日 8月1日(月)

○実施頻度 1週間に1回、3種類(各区から1種類ずつ)の野菜を調査

検査結果は仙台市のホームページで公表します。

【農業振興課生産振興係

214-8335】

生産技術情報 野菜

ホウレンソウケナガコナダニの被害軽減について

はじめに

宮城県で1990年代よりハウス栽培ホウレンソウに被害が拡大し、近年は収穫皆無になるなどホウレンソウ栽培における重要害虫となっています。被害の増加には、環境保全型農業の普及により、稲ワラやモミガラなどの未熟有機物の施用が原因のひとつと考えられます。有機物を投入する場合は完熟のたい肥を施用するなど、害虫の特徴を知り総合的防除に努める必要があります。



生態と形態

ホウレンソウケナガコナダニは他のハダニと異なり、土壌中や土壌に施用された有機物の中に生息しています。土壌表面から深さ5cmまでの層に多く生息し、特に深さ1cmまでは密度が高くなっています。呼吸器官の気門がないため、ハダニ類に有効な多くの殺ダニ剤は効果が低いです。体長0.5mm前後の楕円形で乳白色をしています。肉眼では見えにくく、発生温度は20℃前後で、低温で7℃以下や25℃を超えると増殖は低下します。このことから主な発生時期は春期と秋期になります。

被害の様子

土壌中から成虫が新葉部分に集中して寄生し食害します。葉に小さな穴が開き、こぶ状の小突起ができ、葉全体が光沢を帯びた奇形状態となります。被害が激しい株は葉が縮れ褐変して芯止まりとなります。本葉4〜

10葉期から発生が始まり以後増加します。

また、土壌中の密度が高い場合には播種した種を加害し、発芽障害を起こすこともあります。食害初期は被害に気付かず、葉が展開し奇形葉を確認して発見することが多く、商品価値は大きく低下します。

被害を軽減するには

稲ワラや家畜糞堆肥などの未熟なものを施用した場合にはダニの増殖を助長しますので腐熟させてから使用します。モミガラの施用は腐熟が遅いので使用は避けるようにします。ハウスの前作の残渣や間引き株などは放置したり、土壌にすき込んだりするとダニの増殖源になるので必ず外に搬出処理します。有機質肥料の中で、植物質肥料のナタネ粕などが含まれた肥料の施用がダニの発生を助長していることが知られているので、魚

かすや力ニガラなどの施用が望ましいです。ダニの被害には品種間差があり、発芽揃いが良く、草姿が立性の品種は被害を軽減することが知られていますが、この時期問題となる、べと病との兼ね合いがあるので選定には注意が必要です。土壌条件では砂壤土の方が水持ちの良い粘質土より増殖が多くなることから、かん水チューブを下向きに設置し、10葉期まで土壌表面だけ湿る程度のかん水に努めます。太陽熱を利用した土壌消毒が有効です。成虫は、45℃では3時間以内で死滅しますが、処理できなかった周辺部分や農機具からの再侵入のため効果が持続しない場合があるので、多発が予想される作型の直前に行います。

薬剤による防虫

ホウレンソウケナガコナダニに農薬登録されている薬剤は別表(次ページ)のとおりです。

【仙台市農業園芸振興協会

288-10811】

別表 ホウレンソウケナゴコナダニに効果が期待できる防除薬剤(参考)

薬剤名	有効成分	適用病害虫	使用時期	使用回数	備考
ククメリス	ククメリスカブリダニ	ホウレンソウケナゴコナダニ	発生初期	—	カブリダニによる捕食
カスケード乳剤	フルフェノクスロン	ホウレンソウケナゴコナダニ	収穫3日前	3回	脱皮阻害
アフーム乳剤	エマメクチン 安息香酸塩	ホウレンソウケナゴコナダニ	収穫3日前	2回	食毒、接触毒効果
バスアミド微粒剤	ダノメット	ホウレンソウケナゴコナダニ 立枯病 など	播種21日前	1回	ガス抜き必要
ネマモール粒剤30	DCIP	コナダニ類	播種前	1回	全面土壌混和

*使用に当たっては製品ラベルを必ず参照すること

生産技術情報 花き

花きの栽培管理(8月～11月)

トルコギキョウ

〈8月～10月切り〉

開花期を揃えるために、主枝の頂花は早めに摘み取り、側枝の伸長を促します。収穫は4～5輪開花時に、地際から切り取ります。

〈翌年6月・7月切り〉

播種期の適期は9月下旬～10月上旬で、発芽適温は20～25℃です。発芽後の育苗温度は最低15～18℃が目安で、定植までは80～90日かかります。

ストック

〈定植及び定植後の管理〉

8月中旬～9月上旬にかけて定植し、適期は本葉2～3枚時です。灌水は土が落ち着く程度とし、その後4～5日位控えます。定植の2日前位から遮光(

70%)して地温を下げ、苗の活着後は遮光を除去します。

生育初期は高温のため、水不足になりやすく、節間伸長が抑制されないよう、苗の活着後は2～3日おきに十分に灌水します。温度管理は昼温20℃、夜温8～10℃が目安です。

〈摘心〉

スプレー系の摘心期は、頂芽が1輪開花した頃に頂芽分岐部から花穂を除去します。

〈病害虫対策〉

コナダニは育苗期間から注意が必要です。定植時には土壌施用殺虫剤を使用します。育苗期も生育期も系統の異なる薬剤を組み合わせる体系的に早期防除に努めましょう。

採花後の品質管理

品質の高い切花を提供するためには、採花後の管理が重要です。ポイントをしっかり押さえて作業を行いましょう。

〈採花〉

清潔によく切れるハサミや刃物を使い、朝夕の涼しい時間帯に採花します。

適切な時期に採花します。

〈水揚げと前処理〉

前処理剤は、清潔な容器に正確に計量し、収穫前に作ります。採花後できるだけ早く水揚げします。

〈調製と選花・結束〉

日陰の涼しい場所で行い、水につかっている時間をできるだけ少なくします。

下葉や下枝は除去します。

〈バケツと出荷作業〉

バケツを清潔にし、品質保持剤を使用します。水の量は小売店まで保たれる量を入れます。

〈保管と出荷〉

出荷前は涼しい場所で保管し、採花から出荷までの時間をできるだけ少なくします。

【仙台市農業園芸振興協会

288-0811】

震災に負けず、がんばっています！

市民の方々に、仙台の地場産品と地産地消への理解を深めていただくために、市内の生産農家による「旬の香り市in勾当台公園」を6月15日に開催しました。



盛り沢山の野菜を並べて、さあ！がんばるぞ～。

事前にテレビ等のマスコミでのPR効果があり、多くの市民が来場しにぎわいました。6月から11月まで毎月1回、勾当台公園内のグリーンハウス勾当台前で、仙台市旬の香り市実行委

員会が主催して開催され、生産農家11グループが参加します。生産農家は、このたびの震災と津波で被災し、住宅や農地が大変な状況にありますが、「がんばるぞ！負けてたまるか！」と精いっぱい元気な姿で、市民との交流を深めました。

さらに、被災した女性農業者を支援しようと、(社)農山漁村女性・生活活動支援協会(東京：板東眞理子会長)が主催し、「東日本大震災復興支援農山漁村女性活動支援即売会」が昭和

女子大学で開催されました。仙台市旬の香り市の女性農業者4名が参加し、一言メッセージとともに多くの農産物を送り、仙台産農産物の良さを理解してもらい、完売することができました。



「自宅は壊滅状態です。これからも頑張って野菜を作っていきます」のメッセージとともに、東京へ向けて農産物を発送

仙台市旬の香り市実行委員会の事務局を担当する仙台市農業園芸振興協会では、今後も活動の支援をし、市民への理解を深めていきます。

【仙台市農業園芸振興協会 288-0811】

「菜の花プロジェクト」がスタートしました

東北大学大学院農学研究科では、津波による塩害農地を復旧するための研究として、国の支援を受け、塩害に強いアブラナ科作物を用いた実証実験「菜の花プロジェクト」を行うこととしました。

東北大学はアブラナと近縁の約800系統の遺伝資源を保有しており、その中から塩害に強い系統を選抜し、実際に農地で



満開の菜の花を復興のともしびに…

栽培するもので、仙台市農業園芸センターの花壇及び若林区内の農地の計1.5ヘクタールを対象としています。

現在研究室での苗の検定作業や農地の土壌調査を実施していますが、秋には種を蒔き、来年の春には黄色の菜の花を咲かせます。

責任者の中井裕教授は、将来的には、なたね油の収穫・販売やバイオディーゼル燃料の可能性も探るなど、文字どおり、復興のともしびにしたいと意欲的で、市でもこの活動に連携し、協力していきます。

【農政企画課農商工連携推進室 214-8266】

仙台市からのお知らせ

「ここでちゃん」マークの版代を助成します

市では、せんだい産農産物表示マーク「ここでちゃん」マークを野菜の包装袋や農産加工品に表示、貼付する活動を推進しています。

助成の内容は、袋やシールの印刷に係る版代助成について、1版代あたり上限4万円です。「ここでちゃん」マークの使用や印刷を希望される方は左記までお問い合わせください。



【農業振興課生産振興係

214-8335】

仙台産農産物を用いた商品開発第2弾完成

市では、平成21年度より仙台産農産物の付加価値向上のために新たな商品開発を進めていきました。昨年度は、米粉と豆をテーマに商品開発を行い、新たな商品「仙台あおば冷やし」が誕生しました。

仙台産の米粉を用いた米麺にレタスやキュウリ、トマトなど旬の野菜をからませ、仙台産枝豆をベースにした爽やかな緑色のタレをかけた冷やし麺です。そのほかにも米粉と大豆粉などをミックスした「仙台小焼き粉」などを開発しました。

今年には野菜を用いたスイーツを開発する予定です。

また、そのほかにも新たな商品開発や販路先の拡大などについての支援を行ってまいりますので、農産物を用いた商品化や商工業者との連携の相談など、お気軽にお問い合わせください。

【農政企画課農商工連携推進室

214-8266】

六次産業化法に基づく総合化事業計画の申請を受け付けています。

東北農政局では農業者が新たに農産物の加工や加工品の販売に取り組み場合に、支援を受けることができる総合化事業計画の第二次受付を実施しています。認定されると、無利子資金の特例適用や補助金の交付などを受けられることができますので、農産物の加工や販売を手掛けたいとお考えの方は、お問い合わせください。

○計画提出期限：平成23年8月31日まで

【農政企画課農商工連携推進室

214-8266

農業振興課生産振興係

214-8335】



堆肥等の施用・生産・流通の自粛について

原発事故に伴う放射性物質の降下の影響で、宮城県内でも水田に放置された稲わらから高濃度の放射性セシウムが検出されており、その稲わらをエサにした牛のふん尿や、敷きわらから生産された堆肥はセシウムを含有する可能性があります。

また、事故後に収穫した植物性堆肥原料（稲わら、モミガラ等）から生産された堆肥や、包装されることなく野外に放置されていたものについても同様です。

現在、農水省では堆肥中の放射性セシウムの基準の作成を急いでいますが、それまでの間、宮城県及び16都県で発生した堆肥原料及びこれらを原料とする堆肥について、農地土壌への施用を自粛し、また有償・無償にかかわらず、譲渡もしないようお願いいたします（7月27日現在）。

【農業振興課生産振興係

214-8335】